

IV 比較分析

先の比較で見られるように、ネット調査と世論調査の間には差異が生じている設問は多い。こうした現象は、これまでの調査研究でも見られたことであり、要因としては①回答者の属性、②設問毎の回答形式、③回答者の抽出方法などについて両者間で違うことが、明確になってきたところである。

本稿においても、基本的にこれまでの調査研究¹に沿って分析を進める。比較の際には、前回と同様、各調査の属性において性・年齢構成比が同じになるよう結果を補正したものを使用している（表IV-1）。なお、こうした操作は無作為抽出本来の意義を歪めているとの指摘もあろうが、ここでは、できる限り性・年齢による意識の差異を薄めたいとの意図を優先している。性・年齢別での詳細な比較については、今後の課題としたい。

差異の判定には有意水準 1%を使用している。また、この判定を容易にするため、単一回答設問においては選択肢の間に均等な間隔で重みをつけ、満点が 100 点となるよう点数化している。さらに、複数回答設問のうち少数回答については明確な判定が困難であるため、10%以上の回答が得られた選択肢のみ比較対象としている。

1. 世論調査を対象としたネット利用の有無別の比較

世論調査の結果のうち、ネットを「ほぼ毎日利用している（ $n=2,097$ ）」と「全く利用していない（ $n=2,529$ ）」とを比較した。

単一回答設問における結果をみると、「国を愛する気持ち」関連、「公共サービス」関連、「民意の反映度」において差異が小さく、「社会重視／個人重視」関連、「社会の満足度」において差異が大きい。複数回答設問においては、例えば、「日本の誇り」の全ての項目において差異が大きい。また、現在の世相における暗いイメージに関する項目に着目すると、「活気がない」、「ゆとりがない」において差異が小さく、「無責任の風潮」、「連帯感が乏しい」、「自分本位」、「不安、いらいらが多い」、「うわついて軽薄」、「暗い」において差異が大きい。

これまでの「国民生活に関する世論調査」を対象とした比較分析においては、受動的な（あるいは国民全般に共通した）意識と考えられる設問においては差異が小さく、能動的な（あるいは個人の志向に根ざした）意識と考えられる設問においては差異が大きいという結果が得られていた。今回の結果に照らし合わせると、単一回答設問においては、ほぼ同じような傾向が見られたといえる。複数回答設問についても、例えば、「活気がない」、「ゆとりがない」については、当時の景況感の悪化が国民全体に広がり国民全般に共通する認識程度にまでなったため、と考えられる。

2. ネットを「ほぼ毎日利用している」者に絞ったネット調査と世論調査との比較

ネットを「ほぼ毎日利用している」者に限定し、ネット調査の結果（ $n=1,311$ ）と世論調査の結果（ $n=2,097$ ）とを比較した。

結果をみると、多くの設問について差異が大きくなっており、単一回答設問においては全て差

¹ 内閣府大臣官房政府広報室（2008）、インターネットによる国民生活に関する意識調査報告書。片山朗（2008）、インターネット調査と訪問面接調査の比較分析—内閣府の世論調査への活用可能性—、統計、2008年7月号、同8月号。片山朗（2008）、世論調査におけるインターネット調査の活用可能性（要約）、ESP、2008年8月号。

異が大きい。また、複数回答設問のうち、現在の世相における暗いイメージに関する項目に着目すると、「活気がない」、「無責任の風潮」、「連帯感が乏しい」、「自分本位」において差異が小さいが、「ゆとりがない」、「不安、いらいらが多い」、「うわついで軽薄」、「暗い」において差異が大きい。

これまでの「国民生活に関する世論調査」を対象とした比較分析においては、経済面とはそれほど関連しない設問においては差異が小さく、経済面に大きく関連する設問においては差異が大きいという結果が得られていた。しかし、今回の結果からは、以前と同じような結果が明確に現れているとは言い難い。強いて言えば、差異が小さい「無責任の風潮」、「連帯感が乏しい」、「自分本位」といった項目は、個々の経済状況の違いとは関係なく認識される項目と考えられ、同じく「活気がない」については、当時の景況感の悪化がむしろ個々の経済状況の違いを超えて認識されたため、と考えられよう。一方で、差異が大きい項目については、景況感の悪化などを受けてより経済面に敏感となってきた面もあろうが、全体を総括する明確な説明は容易でない。むしろ、これまでの比較調査においても考えられることながら、ネット調査実施会社が毎回違う²ことにより、ネット調査結果の特性が変化している可能性は無視できないと考えられる。

3. 考察

以上の結果を踏まえ、これまでの調査研究と同様に、縦軸に回答者のネット利用の有無による差異、横軸に調査手法による差異を取り、各設問および選択肢の項目を今回は4つの集団に分類した(表IV-2)。以下、これまでの調査研究の結果とも比較しながら、分析を進める。

(1) 社会に対する満足度

この項目に関しては、「満足している点」(以下「満足」)および「満足していない点」(以下「不満」)の2つの複数回答設問があり、各々同じ選択肢を掲げている。ここでは、選択肢の意味に着目し、初めの7つの選択肢項目を実現すべき社会の姿、残りの4つを社会的配慮が必要な主体別に見た社会の姿として分割し、分析を進める。まず、この「満足」および「不満」を総合的に見るため、両者の差を取ったもの³(以下「充足度」)および、両者の和を取ったもの⁴(以下「重要度」)を新たに算出する。そして、充足度および重要度を座標軸とした各調査間の空間的距離、すなわち、比較対象調査間の充足度の差の二乗と、重要度の差の二乗との和をもって、分類を判断する。

最初に、「良質な生活環境が整っている」(以下「生活環境」)について。これまでの「現在の生活の各面での満足度」を分析した調査研究において、「住生活」、「耐久消費財」といった項目は、ネット利用の有無にほとんど影響されず、調査手法の違いにもそれほど影響されないとされていた(すなわち①に分類)。今回の結果を見ると、「生活環境」は④に分類されている。詳細を見ると、ネット利用の有無において「不満」ではほとんど差異がないものの、「満足」で差異が大きくなっている。こうしたことは、「生活環境」で満足を得ることに個人個人で意識が違ってきている可能性もある。また、先に記述したように、ネット調査実施会社の違いが

² 平成19年6月調査においては株式会社マクロミル、平成20年6月調査においてはヤフーバリューインサイト株式会社、今回(平成21年2月)調査においてはエヌ・ティ・ティ・ナビスペース株式会社が、各々実施。

³ 「満足」に1、「不満」に-1の各々重みを付けて算出した値であり、単一回答設問において算出した平均値と本質的には同じものといえる。

⁴ 「満足」、「不満」のどちらも選択しなかった者はこの項目には関心がなかった者と判断することを、前提とした値といえる。

影響を及ぼしている可能性もある。

続いて、「心と身体の健康が保たれる」（以下「健康」）、「人と人が認め合い交流しやすい」（以下「交流」）について。先と同じく「現在の生活の各面での満足度」における「食生活」は、調査手法の違いに大きく影響されるが、ネット利用の有無には一部を除きあまり影響されないとされていた（すなわち②に分類）。今回の結果を見ると、「交流」は②に、「健康」は④に各々分類されている。「健康」については、「生活環境」と同様、ネット利用の有無において「不満」ではほとんど差異がないものの、「満足」で差異が大きくなっており、「健康」面でも満足を得ることに個人個人で意識が違ってきている可能性もある。また、この項目においても、ネット調査実施会社の違いが影響を及ぼしている可能性がある。

最後に、「経済的なゆとりと見通しが持てる」（以下「経済」）、「働き方を選択しやすい」（以下「働き方」）、「チャンスを見つけやすい」（以下「チャンス」）、「向上心・向学心を伸ばしやすい」（以下「向上心・向学心」）について。先と同じく「現在の生活の各面での満足度」における「所得・収入」、「資産・貯蓄」、「レジャー・余暇生活」、「自己啓発」といった項目は、ネット利用の有無に大きく影響され、また調査手法の違いにも比較的大きく影響されるとされていた（すなわち④に分類）。今回の結果を見ると、「チャンス」は②に、「働き方」、「経済」、「向上心・向学心」は④に各々に分類されている。「チャンス」については、所得向上に向けた「自己啓発」的な要素としてのみならず、あらゆる面での実現機会ともとらえられることから、国民全般に共通する意識とみなされたとの説明が可能であろう。

また、主体別に見た社会の姿に関する項目については、「自立を目指す若者」が③に、「子育て容易な家庭」、「社会と関わる熟年・高齢者」、「社会志向の女性」が④に分類されている。定義上、こうした項目はネット利用の有無に大きく影響されると考えられるため、今回の結果はこれまでの調査研究の結果と整合的である。

（２）社会の各分野に対する見通し

「社会に対する満足度」と同様の操作を行うこととし、「良い方向」および「悪い方向」の各々の回答結果を統合して分析を進める。その際に、これまでの調査研究と同様、回答数の少ない下位の項目には判定しにくいものも多いことから、充足度、重要度の上位項目に絞って比較する。

前回の「政府に対する要望」に関しては、①には「景気対策」、「物価対策」など、②には「社会保障構造改革」など、③は「財政構造改革」、「犯罪対策」など、そして④には「高齢社会対策」、「雇用・労働問題」、「地域活性化」などが各々分類されていた。さて、今回の結果を見ると、「物価」が②に、「景気」が③に、残る「雇用・労働条件」、「国の財政」、「経済力」、「治安」、「医療・福祉」、「地域格差」などは④に分類されている。したがって、「雇用・労働」、「地域格差」などは一致しているものの、「景気」関連（①→③）、「財政」関連（③→④）、「治安」関連（③→④）「医療・福祉」関連（②→④）、「物価」関連（①→②）、などにおいて違いが見られたこととなる。「医療・福祉」については、前々回調査における「社会保障構造改革」が④に分類されていることもあり、その方向性を判定すること自体が不安定な項目なのかもしれない。また、「景気」については、今回は見通しとしての回答であることから、「政府に対する要望」としての「景気対策」とは意味が違っているとの説明が可能であろう。その他、先にも記述してきたように、ネット調査実施会社の違いが影響を及ぼしている可能性がある。

4. 今後の課題

以上の分析から、これまでも指摘してきたとおり、現時点で世論調査が直ちにネット調査に置き換えられる可能性はほぼないことが確認された。

今後の展開の方向としては、ネット調査にとどまらず、調査員による個別面接聴取法以外の手法、例えば訪問留置法あるいは郵送回収法、もしくは郵送法、電話法などによる調査を併せて実施し、比較分析することが考えられる。

分析表

表IV-1 ネット調査と世論調査との比較（性・年齢補正）

		20年度		
		ネット調査 (ネット毎日 利用)	世論調査 (ネット毎日 利用)	世論調査 (ネット不利用)
該当者数 (Q4SQ, Q14SQを除く。)		1311	2097	2529
Q4SQ 該当者数		735	1609	1592
Q14SQ 該当者数		1278	2076	2357
Q 1 国を愛する気持ちの程度	強い (小計)	43.1	59.7	51.6
	非常に強い	5.8	18.8	19.5
	どちらかといえば強い	37.3	40.9	32.0
	どちらともいえない (わからない)	41.1	33.6	38.3
	弱い (小計)	15.9	6.7	10.1
	どちらかといえば弱い	12.8	5.9	8.4
	弱い	3.0	0.8	1.7
Q 1 国を愛する気持ちの程度 (S. A. 平均) 非常に強い: 100, どちらかといえば強い: 75, どちらともいえない: 50, どちらかといえば弱い: 25, 弱い: 0		57.5	67.7	64.8
Q 2 国を愛する気持ちを育てる必 要性	そう思う	64.7	81.8	77.6
	そうは思わない	17.5	9.9	10.0
	わからない	17.8	8.3	12.4
Q 2 国を愛する気持ちを育てる必要性 (S. A. 平均) そう思う: 100, そう思わない: 0		78.7	89.2	88.6
Q 3 社会志向か個人志向か	国や社会のことにもっと目を向けるべきだ	33.6	63.3	48.3
	個人生活の充実をもっと重視すべきだ	15.6	29.8	41.2
	一概にいえない	49.3	6.7	9.1
	わからない	1.4	0.2	1.4
Q 3 社会志向か個人志向か (S. A. 平均) 社会志向: 100, 一概にいえない: 50, 個人志向: 0		59.2	66.8	53.6
Q 4 社会への貢献意識	思っている	56.6	79.2	60.5
	あまり考えていない	35.3	19.3	37.1
	わからない	8.1	1.4	2.4
Q 4 社会への貢献意識 (S. A. 平均) 思っている: 100, あまり考えていない: 0		61.6	80.4	62.0
Q 4 S Q 社会への貢献内容 (複数回答)	青少年健全育成に関する活動*	12.4	13.3	11.0
	体育・スポーツ・文化に関する活動*	12.8	25.2	19.4
	自主防災活動や災害援助活動	27.2	24.0	21.2
	公共施設での活動*	15.1	15.4	10.4
	人々の学習活動に関する指導等の活動*	15.4	15.3	7.2
	国際交流 (協力) に関する活動*	15.5	17.1	6.7
	社会福祉に関する活動*	30.5	35.2	35.4
	保健・医療・衛生に関する活動*	18.3	18.0	18.3
	自然・環境保護に関する活動*	56.8	45.3	34.8
	交通安全に関する活動*	18.2	19.1	22.4
	募金活動, チャリティーバザー	17.3	18.3	16.0
	町内会などの地域活動*	29.7	33.8	32.3
	家事や子どもの養育を通して	23.2	22.8	24.2
	自分の職業を通して	29.5	33.3	19.2
	その他	4.1	1.6	2.3
	わからない	3.0	0.8	2.6
Q 5 国民全体の利益か個人の利益 か	個人の利益よりも国民全体の利益	22.2	60.6	54.4
	国民全体の利益よりも個人個人の利益	9.6	25.1	29.9
	一概にいえない	64.1	13.3	13.2
	その他	1.5	0.1	0.2
	わからない	2.6	0.8	2.3
Q 5 国民全体の利益か個人の利益か (S. A. 平均) 国民全体: 100, 一概にいえない: 50, 個人個人: 0		56.6	68.0	62.6
Q 6 現在の世相 (明るいイメー ジ) (複数回答)	平和である	50.3	61.0	48.4
	ゆとりがある	8.9	8.0	7.8
	安定している	12.9	14.5	12.1
	責任感が重んじられている	7.3	9.5	11.7
	連帯感がある	3.0	5.9	4.8
	おもしろい	8.8	9.6	13.7
	明るい	7.2	5.6	7.3
	活気がある	7.2	6.0	5.9
	その他	7.0	0.3	0.1
	特にな	31.5	23.0	27.9
	わからない	3.7	0.4	1.8
Q 7 現在の世相 (暗いイメー ジ) (複数回答)	不安なこと, いらいらすることが多い	45.6	38.4	33.9
	ゆとりがない	47.7	42.3	40.4
	うわついでいて軽薄である	25.7	19.4	14.6
	無責任の風潮がつよい	63.3	61.4	45.4
	連帯感が乏しい	39.7	38.0	27.0
	自分本位である	53.3	51.5	39.1
	暗い	24.3	16.1	20.0
	活気がない	36.8	34.5	33.9
	その他	4.6	1.4	0.7
	特にな	1.0	0.4	2.9
	わからない	1.5	0.3	1.2

表Ⅳ－１ ネット調査と世論調査との比較（性・年齢補正）

		20年度		
		ネット調査 (ネット毎日 利用)	世論調査 (ネット毎日 利用)	世論調査 (ネット不利用)
該当者数 (Q4SQ, Q14SQを除く。)		1311	2097	2529
Q 8 日本の誇り (複数回答)	長い歴史と伝統	47.1	54.6	45.8
	すぐれた文化や芸術	60.8	56.2	39.7
	美しい自然	53.5	56.2	48.0
	国民の人情味や義理がたさ	32.8	31.2	22.5
	国民の勤勉さ、才能	45.9	44.0	23.4
	高い教育水準	22.2	21.8	12.9
	高い科学技術の水準	30.3	32.8	22.6
	経済的繁栄	14.3	14.8	7.4
	国民としてのまとまり	5.3	5.3	4.1
	社会の安定	15.2	11.5	9.1
	治安のよさ	37.8	45.4	27.5
	自由で平和な社会	27.4	31.5	27.8
	その他	1.4	0.0	0.2
	ない、わからない	6.1	1.1	5.0
Q 9 社会の満足度 (満足している 点) (複数回答)	良質な生活環境が整っている	29.3	39.2	22.6
	働き方を選択しやすい	9.5	13.2	8.9
	経済的なゆとりと見通しが持てる	4.3	4.5	3.0
	チャンスを見つけやすい	4.8	8.1	5.7
	人と人が認め合い交流しやすい	7.4	15.3	14.6
	向上心・向学心を伸ばしやすい	15.6	29.4	11.4
	心と身体の健康が保たれる	13.2	25.4	17.4
	若者が社会での自立を目指しやすい	1.6	4.0	4.0
	家庭が子育てをしやすい	2.0	7.7	8.5
	女性が社会での活躍を志向しやすい	12.4	19.4	16.0
	熟年・高齢者が社会と関わりやすい	9.2	16.2	11.3
	その他	1.7	0.1	0.2
		特にない	42.1	18.4
	わからない	5.0	0.6	1.7
Q 1 0 社会の満足度 (満足していない 点) (複数回答)	良質な生活環境が整っている	23.1	14.4	14.7
	働き方を選択しやすい	30.7	28.5	32.0
	経済的なゆとりと見通しが持てる	57.4	52.2	46.6
	チャンスを見つけやすい	21.6	18.4	17.5
	人と人が認め合い交流しやすい	24.5	17.0	15.9
	向上心・向学心を伸ばしやすい	15.7	10.5	10.6
	心と身体の健康が保たれる	23.2	13.8	13.0
	若者が社会での自立を目指しやすい	41.7	40.9	31.0
	家庭が子育てをしやすい	42.4	38.2	28.8
	女性が社会での活躍を志向しやすい	29.3	25.2	17.3
	熟年・高齢者が社会と関わりやすい	35.3	34.5	27.2
	その他	2.8	2.8	1.4
		特にない	9.5	5.4
	わからない	3.7	0.3	2.8
Q 1 1 社会全体の満足度	満足している (小計)	22.9	45.8	33.9
	満足している	0.7	3.5	5.3
	やや満足している	22.2	42.3	28.6
	満足していない (小計)	74.4	54.1	65.5
	あまり満足していない	43.3	41.8	44.7
	満足していない	31.1	12.3	20.9
	わからない	2.6	0.2	0.6
Q 1 1 社会全体の満足度 (S. A. 平均)				
満足：100, やや満足：66.7, あまり満足せず：33.3, 満足せず：0		30.7	45.7	39.5
Q 1 2 現在の公共サービスの満足度	満足している (小計)	31.5	53.9	48.8
	満足している	1.8	8.3	10.9
	やや満足している	29.7	45.7	37.8
	満足していない (小計)	59.7	42.5	42.9
	あまり満足していない	36.1	31.1	28.6
	満足していない	23.6	11.4	14.3
	わからない	8.8	3.6	8.3
Q 1 2 現在の公共サービスの満足度 (S. A. 平均)				
満足：100, やや満足：66.7, あまり満足せず：33.3, 満足せず：0		36.9	50.9	49.8
Q 1 3-1 今後の公共サービスのあり方 ①民間企業	そう思う (小計)	59.8	73.0	64.6
	そう思う	13.7	34.2	34.4
	どちらかといえばそう思う	46.1	38.8	30.2
	そう思わない (小計)	30.5	24.2	25.3
	どちらかといえばそう思わない	20.5	17.8	15.5
	そう思わない	10.0	6.4	9.8
	わからない	9.7	2.7	10.2
Q 1 3-1 今後の公共サービスのあり方①民間企業 (S. A. 平均)				
そう思う：100, どちらかといえばそう思う：66.7, どちらかといえばそう思わない：33.3, そう思わない：0		56.8	67.9	66.4
Q 1 3-2 今後の公共サービスのあり方 ②NPOなど	そう思う (小計)	51.3	69.0	61.5
	そう思う	8.3	28.5	29.3
	どちらかといえばそう思う	42.9	40.5	32.2
	そう思わない (小計)	35.0	28.0	26.4
	どちらかといえばそう思わない	23.1	18.8	16.9
	そう思わない	11.9	9.2	9.4
	わからない	13.7	3.0	12.2
Q 1 3-2 今後の公共サービスのあり方②NPOなど (S. A. 平均)				
そう思う：100, どちらかといえばそう思う：66.7, どちらかといえばそう思わない：33.3, そう思わない：0		51.8	63.7	64.2

表IV-1 ネット調査と世論調査との比較（性・年齢補正）

		20年度			
		ネット調査 (ネット毎日 利用)	世論調査 (ネット毎日 利用)	世論調査 (ネット不 利用)	
該当者数 (Q4SQ, Q14SQを除く。)		1311	2097	2529	
Q14 国の政策への民意の反映程度	反映されている (小計)	7.1	17.2	20.0	
	かなり反映されている	0.2	0.6	1.2	
	ある程度反映されている	6.9	16.7	18.8	
	反映されていない (小計)	90.6	82.3	76.7	
	あまり反映されていない	44.7	57.2	50.9	
	ほとんど反映されていない	45.8	25.1	25.8	
	わからない	2.3	0.5	3.3	
Q14 国の政策への民意の反映程度 (S.A. 平均)					
かなり:100, ある程度:66.7, あまり:33.3, ほとんど:0		20.2	30.9	31.7	
Q14SQ 社会への貢献内容	政治家が国民の声をよく聞く	15.8	21.6	33.3	
	国民が国の政策に関心を持つ	19.4	22.2	16.4	
	マスコミが国民の意見をよく伝える	3.3	4.0	4.2	
	国民が選挙のときに自覚して投票する	23.9	18.2	13.3	
	政府が世論をよく聞く	10.9	15.0	11.4	
	国民が参加できる場を広げる	19.7	18.2	18.1	
	その他	5.0	0.5	0.5	
	わからない	2.1	0.4	2.9	
	Q15 良い方向に向かっている分野 (複数回答)	外交	2.8	3.4	3.4
		防衛	3.3	3.7	3.7
国の財政		1.0	0.3	0.5	
物価		2.5	1.8	2.5	
景気		1.4	0.3	1.0	
経済力		2.0	2.2	1.8	
雇用・労働条件		1.1	0.7	1.3	
医療・福祉		5.8	12.1	13.5	
教育		5.8	9.8	9.5	
文化		8.6	15.8	7.8	
科学技術		23.1	35.4	22.4	
資源・エネルギー		7.5	15.1	11.7	
食糧		3.2	4.5	6.6	
自然環境		13.1	15.8	11.7	
生活環境		7.0	6.6	6.4	
防災		14.6	22.5	14.5	
治安		5.5	12.3	8.4	
土地・住宅		2.5	2.5	2.6	
通信・運輸		18.8	23.1	9.2	
交通秩序		10.2	17.4	7.8	
国民性		2.1	4.6	3.4	
社会風潮		0.8	1.0	1.0	
地域格差		2.1	4.8	2.7	
国際化		11.7	19.2	12.1	
その他		0.4	0.1	0.5	
ない, わからない		42.3	14.7	32.3	
Q16 悪い方向に向かっている分野 (複数回答)		外交	36.1	26.0	16.2
	防衛	28.1	21.1	11.3	
	国の財政	67.5	49.2	36.3	
	物価	48.8	43.1	42.4	
	景気	75.2	74.1	65.6	
	経済力	58.3	46.0	34.5	
	雇用・労働条件	69.7	64.5	51.6	
	医療・福祉	55.9	38.6	33.2	
	教育	38.0	29.4	20.8	
	文化	12.2	5.6	4.2	
	科学技術	8.3	3.8	2.6	
	資源・エネルギー	32.6	18.8	14.8	
	食糧	45.5	35.2	25.8	
	自然環境	45.3	25.5	19.9	
	生活環境	35.0	18.8	16.4	
	防災	13.5	6.0	4.4	
	治安	57.6	35.7	26.8	
	土地・住宅	16.4	11.2	8.5	
	通信・運輸	7.8	4.0	3.8	
	交通秩序	18.8	9.1	7.2	
	国民性	29.2	18.4	14.1	
	社会風潮	43.2	32.6	19.0	
	地域格差	50.9	41.6	24.1	
	国際化	12.4	9.8	6.5	
	その他	0.9	0.1	0.5	
	ない, わからない	3.9	0.9	4.1	
	Q17 国民の経済状況の違いに対す る政府の対応	税, 社会保障	37.1	42.1	35.2
所得向上への努力に対する側面的支援		14.2	20.1	18.1	
所得向上への努力が生かされる制度改善		28.8	33.4	28.5	
現在程度の対応でよい		2.1	2.4	5.4	
その他		2.3	0.1	0.6	
特にない		3.1	0.5	3.3	
わからない	12.4	1.4	8.9		

表IV-2 総括表

		調査手法による違い	
		有意差なし	有意差あり
有意差なし		Q6 明るい：安定 Q7 暗い：活気なし Q10 不満：働き方の選択 Q10 不満：チャンスあり <div style="text-align: center;">①</div>	Q1 『国を愛する気持ち』 Q2 『国を愛する気持ちを育てる必要性』 Q7 暗い：ゆとりなし Q10 不満：生活環境 Q10 不満：交流しやすい Q10 不満：向上心 Q10 不満：健康 Q12 『公共サービスの満足度』 Q13_1 『公共サービスのあり方（民間）』 Q13_2 『公共サービスのあり方（NPO）』 Q14 『民意の反映程度』 Q16 悪い：物価 Q16 悪い：生活環境 <div style="text-align: center;">②</div>
	ネット利用有無による違い	Q7 暗い：無責任 Q7 暗い：連帯感なし Q7 暗い：自分本位 Q8 誇り：美しい自然 Q8 誇り：人情味 Q8 誇り：勤勉さ Q8 誇り：教育水準 Q8 誇り：科学技術 Q8 誇り：自由で平和 Q10 不満：若者の自立 Q10 不満：子育て Q10 不満：高齢者と社会 Q15 良い：自然環境 Q16 悪い：景気 <div style="text-align: center;">③</div>	Q3 『社会志向か個人志向か』 Q4 『社会への貢献意識』 Q5 『国民全体の利益か個人の利益か』 Q6 明るい：平和 Q7 暗い：不安 Q7 暗い：軽薄 Q7 暗い：暗い Q8 誇り：歴史・伝統 Q8 誇り：文化・芸術 Q8 誇り：治安のよさ Q9 満足：生活環境 Q9 満足：向上心 Q9 満足：健康 Q9 満足：女性の活躍 Q10 不満：経済的なゆとりと見通し Q10 不満：女性の活躍 Q11 『社会の満足度』 Q15 良い：科学技術 Q15 良い：防災 Q15 良い：国際化 Q16 悪い：外交 Q16 悪い：防衛 Q16 悪い：国の財政 Q16 悪い：経済力 Q16 悪い：雇用・労働条件 Q16 悪い：医療・福祉 Q16 悪い：教育 Q16 悪い：食糧 Q16 悪い：資源・エネルギー Q16 悪い：自然環境 Q16 悪い：治安 Q16 悪い：国民性 Q16 悪い：社会風潮 Q16 悪い：地域格差 <div style="text-align: center;">④</div>
	有意差あり		

- ※ 調査手法による違い：ネット調査（ネット毎日利用）と世論調査（ネット毎日利用）を比較。
- ※ ネット利用有無による違い：世論調査（ネット毎日利用）と世論調査（ネット不利用）を比較。
- ※ 総括表内の質問番号は、ネット調査における質問番号。
- ※ S.Q. 及びQ17を除く、すべての質問を比較。ただし、複数回答の質問選択肢は、いずれ（3区分）においても10%以上の回答者が選択したもののみを比較。
- ※ 両側検定での有意水準を0.01とし、Q1～Q5とQ11～Q14については、S.A. 平均の結果を使用。